

RITSUMEIKAN KOKUSAI KENKYU

The Ritsumeikan Journal of International Studies

Vol. 29 No. 3

February 2017

CONTENTS

ARTICLES

- Toward Modeling a Global Quasi-Legislation without a World Assembly: One Innovative Japanese Attempt in the Frontier of 'Global International Relations' Research INOBUCHI, Takashi 1
- The Mysterious Charm of *go* and the Characteristic of the "Big 4" (China, South Korea, Japan and AI) (III) KA, Go
KA, Hyo 13
- The Future of the South in a Globalizing World (3) MATSUSHITA, Kiyoshi 77
- The Japanese QQE Policy during 2013-16 and its Negative Results OKUDA, Hiroshi 115
- Intellectual Property and the National Information Infrastructure established by the Clinton- Gore Team SEKISHITA, Minoru 143
- Formation and Development of the Korean-Chinese Community in Qingdao: Based on the Socio-Economic Networks Interdependence Model NAN, Yugiong 171
- NOTE**
- The Status of American English in Japan IGARASHI, Yuko 195

Published by

ISARU

The International Studies Association

of

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Ritsumeikan University, 56-1 Tojiin-Kitamachi, Kita-ku, Kyoto 603-8577 Japan

Phone : (075) 465 - 1267 Fax : (075) 465 - 1277

立命館国際研究

29 卷 3 号
(通巻 101 号)

目次

- 論説
- 〈立命館大学国際関係学部創設 30 周年記念講演会シリーズ「国際関係学の再創造」〉
- 世界議会なしの世界立法のモデル化
—— Global IR の先端をいく日本からのイノベーション —— …… 猪口 孝…(1)
- 囲碁の「酷」と人智の「魔」
—— 究極の頭脳競技の原理と中・韓・日・人工^A人工^I智能
4 強の特質・行方 (3) …… 夏剛・夏冰…(13)
- グローバルな世界における<サウス>のゆくえ (下) …… 松下 洸…(77)
- 量的・質的金融緩和政策と予想物価上昇、為替相場、株価
—— その政策の「遺産」と「財政ファイナンス」に
言及しながら —— …… 奥田 宏司…(115)
- クリントン=ゴアチームの知財重視と情報スーパー
ハイウェイ構想が切り開いた新しい世界
—— 知識資本主義の解明 II —— …… 関下 稔…(143)
- 青島市における朝鮮族コミュニティの形成と発展
—— 社会的経済的紐帯相互依存モデルから —— …… 南 玉瓊…(171)
- 研究ノート
- 日本でのアメリカ英語のステータス …… 五十嵐 優子…(195)
- 国際関係学部研究会報告 …… (209)
- 【学位論文要旨および審査要旨】 …… (213)
- 研究活動一覧 …… (255)
- 総目次 (2016 年度 29 巻 1 号～3 号)

2017 年 2 月

立命館大学国際関係学会

立命館大学国際関係学会会則

- 第1条 (名称) 本会は、立命館大学国際関係学会という。
第2条 (目的) 本会は、国際関係に関連する学術の研究と普及を目的とする。
第3条 (事業) 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。
1 機関紙「立命館国際研究」の編集と発行
2 研究補助
3 研究会、講演会の開催
4 その他前各号に関係する事業

- 第4条 (会員)
(1) 本会は次の会員を持って組織する。
1 本学国際関係学部 に所属する教授・准教授・講師・助教
2 本学大学院国際関係学 研究科前期課程院生
3 本学大学院国際関係学 研究科後期課程院生
4 本学国際関係学部 生
5 常任委員会において承認を得たもの
(2) 第1号会員の会員は教員部会、第2号および第3号の会員は院生部会、第4号の会員は学生部会を構成する。

- 第5条 (総会)
(1) 通常総会は、毎年1回、常任委員会の招集によりこれを開催し、常任委員会より事業活動及び事業方針の報告を受け、監査委員より会計監査の報告を受ける。臨時総会は、必要に応じて常任委員会の招集によりこれを開催する。
(2) 総会において決議を要するときは、出席した会員の過半数をもって決する。
(3) 委任状または代理人による議決権行使は認められない。

- 第6条 (役員)
(1) 本会に次の役員をおく。
1 会長 1名 4 幹事 1名
2 副会長 1名 5 監査委員 3名
3 常任委員 5名
(2) 会長は、本学国際関係学部所属の専任教員より選出する。会長は本会を代表し会務を統括する。
(3) 副会長は本学国際関係学部所属の専任教員より選出する。副会長は会長を補佐し、常任委員会を主催して会務の運営にあたる。
(4) 常任委員は教員部会の会員より2名、院生部会の会員より1名、及び学生部会の会員より2名を選出する。常任委員会は副会長および全ての常任委員によって構成する。
(5) 幹事は、本学国際関係学部事務長とする。幹事は、会長の指揮に従い本会の日常業務の執行を補佐するものとする。
(6) 監査委員は、教員部会の会員より1名、同条第2号院生部会の会員より1名、および学生部会の会員より1名を選出する。監査委員は、本会の会計を監査し、監査の結果を総会に報告しなければならない。

- 第7条 (事業の執行) 常任委員会は本会の業務を執行する。常任理事会は各年度の事業方針及び予算案を総会に報告しなければならない。また、前年度の事業内容及び決算について、監査委員会の承認を得てこれを総会に報告しなければならない。

- 第8条 (経費) 本会の経費は、会費、補助金及び寄付金をもってこれにあてる。

- 第9条 (会費)
(1) 本会の会費は次の通りとする。
1 第4条第1号の会員 年額 12,000円
2 第4条第2号の会員 半年額 4,000円
3 第4条第3号の会員 半年額 4,000円
4 第4条第4号の会員 半年額 4,000円
5 第4条第5号の会員 年額 8,000円

- 第10条 (会計年度) 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

- 第11条 (会則の変更) 会則の変更は常任委員会の発議により、総会の承認を得なければならない。変更された会則は、総会の承認を得た時点で発効する。

- 附 則
1992年度より会員に大学院国際関係研究科院生を加える。

- 附 則 (2000年7月4日会員の追加による改正)
この会則は、2000年7月4日から施行する。
附 則 (2011年5月10日会員及び会費の見直し、評議委員会の廃止にともなう改正)

- この会則は、2011年5月10日から施行する。
附 則 (2012年1月24日会費徴収方法の変更に伴う改正)
この会則は、2012年4月1日から施行する。

編集後記

今号には、論文6本と研究ノート1本が掲載されている。タイトルから分かるように、多面的な課題についての考察がなされている。そこでは、比較政治学や国際関係理論、比較文化学、開発経済、国際経済、地域研究、教育、様々な分野が扱われており、まさしく国際関係研究の多様性が反映されている。

今年初めて『立命館国際研究』の編集に関わったが、サイエンス・フィクションを主に扱っている自分の研究が国際関係研究からほど遠いと感じていたものの、今号の論文を通じて共通する問題点を見出すことができた。一種のシンクロシティだろうが、29巻1号から連載されている夏剛先生執筆『囲碁の「酷」と人智の「魔」―究極の頭脳競技の原理と中・韓・日・人工知能4強の特質・行方』を読んだ数ヶ月前に、囲碁、チェッカー、麻雀、将棋をテーマとし、人知を超えたものを描いた宮内悠介作『盤上の夜』(2012年)を読んだばかりだった。また、猪口孝先生や松下洸先生の論文は、殆どの陸地が水没した未来、残り限られている土地に住む陸上民の国家連合と、遺伝子改変によって海に適応した海上民との対立や行方を描いた上田早夕里作『華竜の宮』(2010年)を連想させる。なるほど、グローバル化が進んだ世界をあらゆる側面から理解しようとしている国際関係研究とSFが常に試みている思索には、方法はもちろん異なっているものの、何か同様な精神がある。今後も、多様性に溢れた論文が投稿されると期待しよう。(タヤンディエー・ドゥニ)

立命館大学国際関係学会会員 (教員)	(アルファベット順)
足安クロス	DE ANTONI, Andrea
福海	FRENCH, Thomas William HAYES,
△原林	Blake Elaine
廣野	KOGA BROWES, Scott Philammon KUNSCHAK,
本星	Claudia
五十嵐	MOUSOURAKIS, George
池田	ÓMÓCHAIN, Robert
板木	RAJKAI, Zsombor Tibor
岩田	△ TAILLANDIER, Denis
井澤	
夏村	
河川	
川村	
金	
◎君島	
小山	
○益田	
松田	
南川	
研啓	
幾朗	
京子	
さやか	
毅彦	
大祐	
和美	
野名	
星野	
優子	
田淑	
木雅	
田拓	
井友	
美剛	
律子	
村仁	
金子	
東彦	
昌久	
田実	
正彦	
文里	
南野	
三井	
宮口	
森岡	
中川	
中本	
中戸	
西達	
智村	
大田	
大島	
大山	
佐伯	
末近	
高橋	
龍澤	
徳丸	
山下	
泰義	
久美子	
貴彰	
真史	
涼司	
真生子	
祐夫	
啓示	
智朗	
英明	
堅一	
真司	
千鶴	
近浩	
伸彰	
邦彦	
浩久	
範	

◎印 会長 ○印 副会長 △印 常任委員

立命館国際研究		29巻3号 (通巻101号)
2017年2月25日発行		
編 集 行	立命館大学国際関係学会	
発 行	代 表 君 島 東 彦	
	〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1	
	T E L (075) 465-1267	
	F A X (075) 465-1277	
印刷所	株 式 会 社 図 書 同 朋 舎	
	〒600-8805 京都市下京区中堂寺鍵田町 2	